

2012年(平成24年)7月10日(火曜日)

日本経済新聞

水処理膜、「京」使い研究

神戸大・神鋼系など連携

神戸大学は神鋼環境ソリューションなどと連携し、上下水道設備に使う新たな浄水システムの研究を始めた。汚れた水を薄い膜を通過させて、ろ過する仕組みを計画している。現在は砂を使ったり過が主流だが、膜処理はバクテリアを除去できるといふ。東南アジア

各国や新興国の施設への導入を念頭に、2016年度までの実用化を目指す。同研究は文部科学省の補助事業に採択された。神戸大先端膜工学センターが核となり、神鋼環境ソリューションや積水化学工業などと連携して取り組む。開発に関する総

事業費は5年間で7億円程度になる見通しだ。

次世代スーパーコンピュータ「京」などを使い、たんばく質などの汚れを処理する膜の開発を目指す。実用化に向けて、「採算面などの課題を克服したい」（神鋼環境ソリューション）考えだ。

研究を担当する松山秀人教授は「水関連ビジネスでは中国などが技術面で追い上げている。日本からの新たな技術革新につなげたい」と話す。